

2026 年 8 月 9 日

主日礼拝

礼拝讃美歌⇒481 番 (KH 姉)

『ああ嬉しわが身も』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 5 章 2~8 節 (MM 姉)

『このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、不信心な者のために死んでくださった。正しい人のために死ぬ者はほとんどいません。善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれません。しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒490 番

『尊きかなわれさえ』

聖書⇒イザヤ書 43 章 19~21 節 (KT 姉)

『見よ、新しいことをわたしは行う。

今や、それは芽生えている。

あなたたちはそれを悟らないのか。

わたしは荒れ野に道を敷き／

砂漠に大河を流れさせる。

野の獣、山犬や駝鳥もわたしをあがめる。

荒れ野に水を、砂漠に大河を流れさせ／

わたしの選んだ民に水を飲ませるからだ。

わたしはこの民をわたしのために造った。

彼らはわたしの栄誉を語らねばならない。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 6 章 53~56 節

『イエスは言われた。「はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。』

(祈り)

聖書⇒雅歌 5 章 16 節 (KH 兄)

『その口は甘美、なにもかもわたしを魅惑する。

エルサレムのおとめたちよ／

これがわたしの恋する人、これがわたしの慕う人。』

礼拝讃美歌⇒63 番

『わが愛する主は』

《パン裂き》

聖書⇒マタイによる福音書 26 章 26~30 節 (SK 兄)

『一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取って食べなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。言うておくが、わたしの父の国であなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。』

(式)

礼拝讃美歌⇒145 番

『主イエスよわれらは』

《建徳》

聖書⇒創世記 5 章 21~24 節 (YN 兄)

『エノクは六十五歳になったとき、メトシェラをもうけた。エノクは、メトシェラが生まれた後、三百年神と共に歩み、息子や娘をもうけた。エノクは三百六十五年生きた。エノクは神と共に歩み、神が取られたのでいなくなった。』

聖書⇒申命記 18 章 15, 18 節

『あなたの神、主はあなたの中から、あなたの同胞の中から、わたしのような預言者を立てられる。あなたたちは彼に聞き従わねばならない。』

わたしは彼らのために、同胞の中からあなたのような預言者を立ててその口にわたしの言葉を授ける。彼はわたしが命じることをすべて彼らに告げるであろう。』

聖書⇒マラキ書 3 章 23~24 節

『見よ、わたしは／
大いなる恐るべき主の日が来る前に／
預言者エリヤをあなたたちに遣わす。
彼は父の心を子に／
子の心を父に向けさせる。
わたしが来て、破滅をもって／
この地を撃つことがないように。』

聖書⇒ルカによる福音書 1 章 17 節

『彼はエリヤの霊と力で主に先立って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に正しい人の分別を持たせて、準備のできた民を主のために用意する。』

聖書⇒ヨハネの黙示録 11 章 3, 5a, 6, 7~8, 11~12, 13 節

『わたしは、自分の二人の証人に粗布をまといさせ、千二百六十日の間、預言させよう。』

この二人に害を加えようとする者があれば、彼らの口から火が出て、その敵を滅ぼすであろう。

彼らには、預言をしている間ずっと雨が降らないように天を閉じる力がある。また、水を血に変える力があって、望みのままに何度でも、あらゆる災いを地に及ぼすことができる。

二人がその証しを終えると、一匹の獣が、底なしの淵から上って来て彼らと戦って勝ち、二人を殺してしまう。

彼らの死体は、たとえてソドムとかエジプトとか呼ばれる大きな都の大通りに取り残される。この二人の証人の主も、その都で十字架につけられたのである。

三日半たって、命の息が神から出て、この二人に入った。彼らが立ち上がると、これを見た人々は大いに恐れた。二人は、天から大きな声があつて、「ここに上って来い」と言うのを聞いた。そして雲に乗って天に上った。彼らの敵もそれを見た。

そのとき、大地震が起こり、都の十分の一が倒れ、この地震のために七千人が死に、残った人々は恐れを抱いて天の神の栄光をたたえた。』

聖書⇒ルカによる福音書 7 章 26~28 節

『では、何を見に行つたのか。預言者か。そうだ、言っておく。預言者以上の者である。『見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、／あなたの前に道を準備させよう』／と書いてあるのは、この人のことだ。言っておくが、およそ女から生まれた者のうち、ヨハネより偉大な者はいない。しかし、神の国で最も小さな者でも、彼よりは偉大である。』』

聖書⇒ヨハネによる福音書 10 章 41~42 節

『多くの人がイエスのもとに来て言った。「ヨハネは何のしるしも行わなかったが、彼がこの方について話したことは、すべて本当だった。」そこでは、多くの人がイエスを信じた。』

聖書⇒創世記 6 章 5~7 節 (KH 兄)

『主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。主は言われた。「わたしは人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう。人だけでなく、家畜も這うものも空の鳥も。わたしはこれらを造ったことを後悔する。』』

聖書⇒サムエル記上 15 章 34 節

『サムエルはラマに行き、サウルはギブアの自分の家に向かった。』

礼拝讃美歌⇒427 番 (KH 兄)

『われに来よと主は今』

《建徳要旨》